

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 3月 24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270600535
法人名	有限会社 ハーベストライフ
事業所名	グループホーム みのり
所在地 (電話番号)	三島市二日町650-1 055-975-7788
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年1月19日

## 【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	11 人

### (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

### (4)利用者の概要(平成21年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.2 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	芹沢病院、石井内科、栗原歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三島市の市街地で、敷地の中には菜園や木のテーブルが置かれたテラスが有り、広々とした開放感のある施設環境が整えられたホームである。施設長の「もう一つの我が家」を目指したホーム運営への熱いポリシーを職員間の信頼関係にて日々実践し、地域や家族との友好関係や、介護計画を日々のケアに活かす生活記録表の仕組み、開放的な玄関とゆったりと清潔な居住環境の中で利用者が穏やかに暮らしていることが窺えるホームである。今後は日々の生活記録と介護計画見直しの連動や、全職員による自己評価の取り組みとそれを活用した更なる職員やホームの改善目標設定を図りより充実した「もう一つの我が家」作りを期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	施設長や職員は外部評価の意義をよく理解しており、前回の外部評価結果は職員間で話し合い出来ることからの改善に取り組み、職員を育てる取り組みや介護計画見直しの仕組みを除き改善が確認出来た
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットリーダーが日ごろのケアを中心に作成し、施設長が全体を取りまとめていたが全職員参加までには至っていなかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度介護相談員・民生委員・地域包括センター職員・家族・利用者の参加の下、日ごろのホーム運営状況報告や行事予定、ホーム課題などの話し合いが行なわれ、民生委員からボランティアの紹介を受けるなど有効に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付の窓口やご意見箱の設置など、家族の意見・要望を聞く機会を設けている。家族来訪時の面談や電話連絡、各種イベントや誕生会・食事会などにも家族の参加があり家族の意見や希望などを言いやすい雰囲気作りも工夫されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが地域の一員として理解されるよう、自治会にも参加し、散歩時の挨拶を始め施設イベント(納涼祭や子供しやぎり来訪、高校生の太鼓演奏やジャズコンサート、三島市薦協同組合-若薦会-による梯子のりなど)に近隣の参加も得られている。また、中学生の福祉体験受け入れなどもあり、地域との交流は活発に行なわれている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関入り口に企業理念「実りある最良の生活を収穫する」をかかげ、ホームを「もう一つの我が家」としてその人らしい馴染みの生活を支援する理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長と職員は「もう一つの我が家」の運営を目指し、各ユニット毎のカンファレンスや、日々のミーティングや申し送りなどで一人ひとりの思いとその人らしい暮らしの実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが地域の一員として理解されるより、自治会にも参加し、散歩時の挨拶を始め施設イベント(納涼祭や子供しやぎり来訪、高校生の太鼓演奏やジャズコンサート、三島薦協同組合-若薦会-による梯子のりなど)に近隣の参加も得られている。また、中学生の福祉体験受け入れなどもあり、地域との交流は活発に行なわれている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や職員は外部評価の意義をよく理解しており、前回の外部評価結果は職員間で話し合い、出来ることからの改善に取り組み、職員を育てる取り組みや介護計画見直しの仕組みを除き改善が確認出来た。今回の自己評価は各ユニットリーダーが日ごろのケアを中心に作成し、施設長が全体を取りまとめたが全職員参加までには至っていなかった。	○	更なる取り組みとして、自己評価を全職員が確認し、その内容を、各職員やホームの課題として捉え、職員やホームの改善目標設定などへ繋げることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度介護相談員・民生委員・地域包括センター職員・家族・利用者の参加の下、日ごろのホーム運営状況報告や行事予定、ホーム課題などの話し合いが行なわれ、民生委員からボランティアの紹介を受けるなど有効に活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは介護保険更新手続きや会議報告・提出書類直接持参など定期的に連絡連携を図り、様々な情報を得るように心掛けている。また、介護相談員の受け入れも行っており、共にサービスの質向上に繋げるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、利用者別の居室担当者からの手紙で利用者の日ごりの様子や健康状態を報告したり、個々に領収書を添えて預かり金出納報告も行なわれている。家族の来訪頻度も高く、家族アンケートからも職員の対応や暮らしぶり報告などの評価が高く、良好な関係が窺える。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口やご意見箱の設置など、家族の意見・要望を聞く機会を設けている。家族来訪時の面談や電話連絡、各種イベントや誕生会・食事会などにも家族の参加があり家族の意見や希望などを言いやすい雰囲気作りも工夫されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は開設時から関わり、利用者が安心して暮らせるよう、職員の移動や離職は極力抑えるようにしている。やむを得ずそうなった場合はさりげない挨拶と他の職員によるケアで利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は職員のレベルアップを目指し、ミーティング時の勉強会や個々の職員に相応しい外部研修を受講できるよう推進しているが、職員の経験や習熟度に合わせた計画的な研修には至っていない。	○	ホーム内には施設長を含め計画作成担当者などに介護福祉の専門家が居るので、自己評価を活用して職員の介護技術や専門知識習得の勉強会などへの取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は静岡県グループホーム連絡協議会事務局を兼ねておりグループホーム研修会などを通してのネットワーク作りを行ない同業者との情報交換を図っている。また他ホームとの交流も計画されているが職員間での他ホーム交流には至っていない。	○	職員間での他ホームとの交流は気づきも多く、自身の介護技術の確認にもなり視野も広まることから相互訪問や交換研修等、積極的な取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者や家族と面談し自宅訪問や、ホーム見学、家族一緒の宿泊の機会を設けたり、併設のデイサービスの利用など、少しずつホームに馴染む機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に関わりコミュニケーションを取りながら、買い物、掃除、食事作りなどを一緒に行うことで利用者の充実した生活が送れるようにさりげない支援に徹している。家族から生活暦を聞き、季節の食材や味付け、遊びや言葉使いなどを教わりながら利用者の大事な存在となるような信頼関係作りを大切に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の毎日の様子や会話から個々の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者ごとの生活記録表に、職員のだれもが気付いた事を書き込み情報を共有するシステムができていて、全職員で見守り把握に努める姿が見受けられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に、能力の引き出し・自立を目標に掲げ、日々の生活記録により気付いたことの情報交換を行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活記録表を開く度に、介護計画と対比しながら書き込みができる独自の管理記録により、一葉で日々の状況が週ごとに観察され、変化に応じて実情に促した介護計画に見直されているが、定期的な見直しを行うまでには至っていない。	○	介護計画と連動した生活記録表にて日々のケアが行なわれているので、定期的に介護計画も見直しを行う取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じた通院や送迎支援の他、デイサービス利用者との交流など、生活にリズムを作れるよう、買い物・ガソリン給油・各種イベントへの参加・利用者の家族に泊まって頂するなど柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先したかかりつけ医の選択・受診ができる。協力病院以外の通院は家族の協力を得ながら介助しており、職員は医師の話を直接に聞くことができ、その後の支援に活かされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関・家族・本人と話し合い、一番良い方法支援がとれるよう努めている。過去、ターミナルの経験もあり、終末期対応への職員間の話し合いは行なわれている。	○	高齢者には容態の急変も有り得るので、医師、看護師等の医療関係者とホーム、家族が一体となったチームによるターミナル・ケアを実践するためのホームとしての基本指針やマニュアル等の整備を望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りの尊守を第一義に利用者の気持ちの理解、言葉かけには十分な配慮をしながら接しており、個人情報の書類は事務所で厳重に保管され、医療関係の書類は施設長が管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを重んじ、決して強制はしない。併設のデイサービスに囲碁の対外試合をしに出かける人、手芸を楽しむ人など思い思いに過ごしており、居間の壁には、利用者が毛糸で描いた富士山の絵など創作品で飾られていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを念頭にバラエティに富んだ献立を作り、職員も同食して、家族的な雰囲気ですべてを楽しみ、台所仕事も分担して楽しそうに手伝っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3組に分けて週2日を予定入浴日としており、予定日に入浴できなかった場合でも、いつでも入れるよう毎日お風呂を用意している。生活習慣に合わせて、遅い時間にも入浴できるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当日は2時から習字教室が開催されていた。ロール手芸、マフラー編み等、多種多様な作品が、居間や廊下の壁に飾られていた。大正琴、民謡のCDなど音楽も楽しみとしている様子が見受けられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	居間の外側には広く長いデッキが設けられ、居間との段差も無く自由に外気浴を楽しめ、希望によって散歩・買い物などなるべく外気に当たれるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されておらず、居間も広く天井も高く全般にゆったりとして、ベランダへの出入りも自由で開放感に満ちた雰囲気の中で「もうひとつの我が家」をめざし家庭的な運営がなされていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力の下、年2回開催されているが、地域の防災訓練への参加には至っていない。	○	地域防災訓練の参加や運営推進会議を通じて災害時の夜間協力依頼など、地域の人々の協力を得られるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量・食事形態になるよう支援している。水分は十分に採れるよう10時・15時・食事時にお茶を提供し、好きな時にお茶が飲めるようフロアーに、ポットキーパーを常設している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く採られ、日当たりも良く、明るく、清潔で、居間の中に和室も用意され、壁面には利用者による習字、切り絵、ロール絵、毛糸絵などの創作物が飾られ、居心地よく過ごせる雰囲気満ちていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には、木に手彫りで描かれた表札があり、室内に持ち込まれた馴染みの備品などが整然と配置され、我が家感に満ち、居心地が良さそうに見受けられた。		